

feature interview

DJ KEN-BO

長年培ってきた経験とスキルに独自の感性がプラスされ、最高の選曲を生み出すDJ KEN-BO。
【The Finest】一周年をお祝いするインタビューは、とてもディープな内容となった。必読！

■【The Finest】も8月で1周年を迎えますが、この1年を振り返ってみていかがでしょうか？

どうしてもお客さんに左右されてしまう所があって、自分的には色々やってる部分もあるし、もうちょっとやりたい所もあるけど、でもやりたい事っていうのは、対お客さんって考えた時にナンになったりする事もあったりして、それでも突っ込んでやったりする時もあるけど、やっぱり色んな人達に来て欲しいし、偏った感じにはなりたくないっていうのが大前提で、新譜もかけていかなきゃいけないものだろうけど、時代を超えたものもかけていくっていうコンセプトは今でも変わらないですね。3Fのパーティーはみんな色々やっているので、そことのバランスもあるけど、全体的に3Fは結構良い感じかなというのもありつつ、変えなきゃいけない部分もあるんじゃないかなって思いますね。やっぱり週末だし、全体で多少変わってきた部分があるし、その中で金曜日も変わった部分があるっていうのを感じてるよな。

■具体的にはどういった変化だと思えますか？

毎年お客さんも入れ変わっていくと思うし、それがずっと同じような感じで移動していくかと言ったらまた違う訳だし、マイナーチェンジっていうのがやっぱりあって、例えば、同じゲームでもその続編が出るちょっと変わってたりする所もあるじゃん。それがお客さんにもあるような気がするから、ポジティブに「オレはこう思ってるけど、若い子はこう思っているんだな」というのも多少はやっていかなきゃいけない部分だろうし、良い意味で歩み寄る事は必要だよな。音楽をずっと聴いていて、仕事をしながら、良い意味でも悪い意味でも年を取っていく訳で、気持ちは全然昔と変わらないんだけど、後から自分より若い人達が変わっていく訳だから、自分の18歳の頃と今の18歳は違うけど、元々の自分っていう部分も上手く出していって、フレキシブルに対応せざるを得ないよな。でもそれはやっていて面白いとも思える部分だし、お客さんに楽しんで貰えるのが一番だっていう所が、そうさせているんだと思いますけど。例えば横浜とか、あそこは凄く良い意味で、横浜っていう感じがあって、SOUTH系だったら、ひたすらSOUTHがかかって、お客さんも歌ったりしつつ、男も盛り上がっている訳。オレが自分なりにやっても盛り上がってくれるけど、でも横浜は横浜な感じっていうのがあって、やっぱり横浜っぽい感じの人がやった方が盛り上がるよな。それは別に自分と横浜の人を比べるとはいいけど、それがNYでもやっぱり違うと思う。NYで人気のあるDJが東京に来てハーレムでやっても、そこまであげきれなかったりする時もあるだろうし、それってやっぱり東京に住んでいる人達の方が強いからじゃん。その先をずっと見ながらやって、そこで培ってやっているものがあるから、今のそこがある訳だし、DJが作っている部分もあるだろうし、曲も変わっていくんだから、その辺は場所や時代に合わせて出したり引いたり押しやりしながらバランスを取ってやるしかないんじゃないかなと思いますね。

■DJをやっている面白さや盛り上げ時は？

これはバツとかけた時に盛り上がるんだらうなって曲をかけた時に盛り上がったらニヤっとしちゃう。わかってながら、オーミたいな。でも意外と自分がサラッとかけた曲が盛り上がる事もあるし、予想つかない事いっぱいあるから面白いんだけど、その辺はホントにバランスを取ってやらなきゃいけないと思う。そこはオレだけが意識していても仕方ないし、オレがやるから、誰がやるからとかそういう所じゃなくて、もっと違った意味でバランスが取れたらいいな。「この人がこの曲をかけるからオレはかけられないし」じゃなくて、別にかけて欲しいし、楽しんでやっているとダメだしね。クラブで聴くから楽しい曲とかも絶対あるから、ホントに楽しくっていかなきゃいけないんですよ、DJって。自分が「今あんまり良くないな」と思っている時って楽しんでないんですよ、きっと。多分自分が楽しくしてやっている時っていうのは、凄く良いんですよ。それは多分何でもそうだと思うので、そこはやっぱり自分次第なんです。金曜日って最近平日と同じみたいな所もあって、それって言うから、週末っぽくやるだけじゃなくても良いかもしれないし、でも金曜日は金曜日だし、でもまあ難しい事は間違いないよな。だから楽しんでやるしかないっていう感じで。

■最近のシーン全体に対して特に強く感じる事は？

最近若くなって思っちゃう事が多いのは確かなんだよな。多分それは色々なメディアだったり、HIP HOPやR&Bの音楽が溢れている状況にあるからだと思う。こういうインタビューでオレがよく言っているけど、発展する事で、良い事もあるし悪い事もある。その一つとして、あえて悪い方を言っちゃうと、最近の物ばかりしか知らないから、古い物に対して、全然ピンと来てくれないものもあるけど、その代わり、最近の音楽は凄く詳しいし良く知っている。若いから仕方ないと思うんだけど。やっぱり全部動いていく訳で、古い曲の中で定番っていうものもあるけど、やっぱりCLASSICSっていう所で残っていく曲の定義がちょっとずつ新しくなっているのになってくるので、意識の差っていうか、音楽を長く聴いていて、ずっとシーンにいる人と、最近でこれくらい聴いているっていう人達のCLASSICSっていうものに対する考え方は違っている事ですよ。だからそこを考えたオレはやっぱりやらなきゃいけないって思うんですよ。例えば、80'sとかをやるでしょ。HIP HOPを凄く好きな人は引く人もいるけど、一般の人が聴いて、聴きやすいから良いっていう人も居るっていうのがまた面白い所ですよな。だからDJは面白いって思う。

■DJスタイルについて心がけている事はありますか？

好きな曲と嫌いな曲ってそれぞれあると思うけど、オレは基本的に好きな曲が多いというか、自分がそこまで好きじゃなくても、みんなにそれをかけたらワーって楽しんでもらえるような曲っていうのは嫌いな印象はないし、自分がDJなのは、音楽をいっぱい聴いてきた上でDJをやっているから、それなりに古い曲をかけた時に説得力が出たりするんだらうし、そういう部分は新譜でも随所に出していきたいと思う。オレのDJをホントに上手いって思ってる聴いてくれる人達もいると思うし、普通に楽しんでくる所も来る人もいたりして、オレを良いと思ってくれている所は色々だと思うんだよな。「女ウケが良い」とか言われるけど、それもそうかもしれないけど、それだけじゃないと思うし、それ以外の所でも見せているつもりではあるし、でも家庭環境とか色々な部分に影響しているものっていうのは最近思う所です。やっぱり女子に人気があるって言われるって事は、うちは女家族で母さんが美容師だったっていうのを受け継いでるんだらうって思う。それは別に自分で意識している事でも何もなく、それがウケているのだったら、根本的な部分は別に変わる必要もないんじゃないかなって思うけど、でも時代は変わっていく訳だから、そこでやっぱり柔軟に対応するのも仕事なのかなって。昔からそう思ってるって思うけど。

■その日の曲をセレクトするポイントは何？

例えばふとした時に家に居て、テレビとかで耳にしたとか、何かの話の中で話題に出たりして、「ああこういう曲あったな、最近誰もかけていないや」と思っただけです。それでその辺の流れの物を持ってきてかけた時に、「ああ懐かしい、良いね」と言ってくれてくれる人もいたりして、結局自分の生活の中からピックアップしてきてやっているので、今週は何やろうかなとか、毎回深く考えたりはしないで、何かふとした時に、これかけてみようかって感じですね。だから聴く側も、そんなに堅苦しく思わなくて良いし、結果としては、考えてかけているのかもしれないけど、単純にそれを聴いて良ければ良いし、「あんまり私ダメかも」というならそれで良いんじゃないかな。ホントに色々なDJがいるし、若い、自分達のジェネレーションの中から出てくるDJで自分にフィットするヤツもいるかもしれないし、それはそれだと思っよ。時代の流れだと思っよ。

■スタイルや選曲など、自分の中のDJとしての変化はありますか？

もうこの仕事を15年くらいやっているので、その中で色々変わっていった部分も、自分で上手くなったっていう部分も、最近こういう事してないっていう部分もあるよな。例えば、ミドルスクールの時代は二枚がけとかしていたけど、そういうのは最近全くなくなっちゃった。あの頃は曲1曲に対して5分くらい使ってた時代があって、お客さんもHIP HOPが好きで人達が、内輪っばいノリで盛り上がるみたいな。でも今は一曲一曲をフックだったり意味内容で繋いだりとか、二枚でかけてどうこうじゃなくて、



二枚かけて1曲5分使っていたのを、逆に今は5分あったら、7曲とか8曲とか10曲とかかけられるように自分になってるよな。それは変化だし、やっぱりオレは遊び場が好きだし、盛り上がり、超ノリノリだわっていうのが好きだから多分そうなんだって思うし。逆に前はやらなかった事をやるようになったっていうのはあるよな。80'sやCLASSICSもかける人は結構前からかけていたけど、ホントにポップス、ホントにロックみたいなのはそこまでやっていなかったし、「これかけちゃうの？」みたいなのをかけるっていうのは、昔はそこまでしていなかったけど、元々レコード持っているし全然出来ちゃうって感じて。でもそういう曲の中にもいろいろ「ノリノリ」って言うか「週末感」がある物が多いよな。

■週末のDJとしての定義とは？

やっぱり自分が楽しければみんなも楽しいし、その楽しさっていうのは、週末遊びに来ている事自体が楽しいんだから、そこで自分が何をやるかって言ったら、古いけど、「花の金曜日」みたいな空間をいかにして与えるか、どうやって表現していくか、その中には古いのも新譜も色々なジャンルも混じってきて良いんじゃないかって。でもある程度、お客さんの許容範囲じゃなきゃいけないから、一曲一曲長かったりとか、ここはもっとテンポ良くいって欲しいなって所でダラダラしてたら、お客さんとしては落ちるしね。早すぎるのもダメだけど、次は何がくるんだらうって、楽しみながら踊っている子が、また同じアーティストとか同じプロデューサーでグラッとかかかってたら、どうしてもだれるって思うんだよ。それってお世辞にも週末っぽいとは言えないでしょ？ OLEDD SCHOOLとかもかかって全然良いんだよな、それをいかに上手くコンパクトに、みんなが聴きやすく、みんながノリやすくまとめるかだから。そういう所をもっと気を付けて若い子はやるべきじゃない？ ただ流行っている曲をかけるのではなくて、自分がかけるこういう空間になるのって出るのがDJだと思う。ジュークボックスじゃないから、DJは。だから「あんなDJだったら私がCDJでも出来そうだ」と言われちゃうDJの上手いと思う。でもそうだよって(笑)。ホントに上手いDJっていうのはかけた時に、「ああこういうタイミングでこれがかかって、次はこうやっていくんだな」という所があって、曲を流しているだけじゃなくて、空間を作っているから、DJという職業が成り立つ訳であって、それで食っていく訳じゃない。そこをもう一回考えるべきだと思う。やっぱりTAIKI君とか見ると、それわかってるかなっていう感じがするよな。TAIKI君とかHAZIMEとかもそうだけど、やっぱり分かっている部分ってあるよな。お客さんの顔を見ながらやる事だったりね。オレとはまた違う切り口だけど。そういうのってやっぱり土曜日だと思っよ。クラブDJだと思っよ。

■DJを目指している人や実際DJを始めた人に対し、先輩DJとして何かアドバイスはありますか？

曲って色々引っかかる所を探してMIXしていったり繋いでいったりする訳なんだけど、それを自分なりにつまみかきを見つけてのではなく、アーティストとかプロデューサーとか、そういう部分で繋ぐのはホント誰でも出来ちゃうと思う。だからそれってあんまりしたくないよな。やるならやるで、ある程度スマートにやるのが良いとオレは思う。逆に言うかアーティスト繋がりとかプロデューサー繋がりとか、そういうのが一般的になっている事により、そうやって繋げば良いと思うから、DJが簡単になっているんじゃないかなって。確かにそういうやり方もアリだし、それで全然良い部分もあるけど、それだけじゃないじゃんって思う。リリックとか、色んな引っかかる部分があるよな。それで実際クラブで回っていたり、そういうのがオクチャーになっちゃって世の中があるんだもん。それだとやっぱり良くないよって話で、お決まりな感じっていうのが存在してて、繋ぎやすい曲ばかりとか、プロデューサーで繋がりだだけとホントにみんな一緒になっちゃうよって思っちゃう。でもそういう曲達が盛り上がる曲だったりするんだよね。同じくくなくなっちゃうから、そこにいかに何か違う物を加えていくっていう部分で、REGGAEが入ってきたりとか、古いのが入ってきたりとかさ、そういう事をオレはやってるつもりなんだけど。お約束も全然アリだし、それは昔からある事だし、構わないけど、やっぱり最小限にしたいのは本音。でもかけていく流れでプロデューサー繋がりになっちゃう部分っていうのはあるよな。それってバランスで、一概に良いとか悪いとかダメだとかオクチャーとか言えないけど。

■今後【The Finest】をどういったパーティーにしていきたいですか？

最近金曜日は平日っぽい部分もあるって言うけど、金曜日って言ったら花金とか言われていたし、昔から金曜日って遊びに行く日だからさ、ミラーボールがクルクル回って、光がピカピカしてて、色々なヤツがいて、週末で色々かかっていて楽しいみたいな。例えば、ドコモのメールで「今日The Finestに行くから」の後に、絵文字でダイヤが2つあるじゃないですか？ それを付けたくなるようなパーティーにしたいですね(笑)。ホントにキラキラとしてて、週末っぽくて、良い意味で色々感じてる、良い部分でのディスコティックな部分も残していきたいですよな。「週末とは？」みたいな部分で、そこはずっと思っている事なんだけど、それを具現化したい。自分でやっていて「今日は週末っぽく出来たな」と思っ事があるって、その時っていうのは凄く良いんですよ。そういうプレイがそうなのかって口では言えないけど、そういうプレイをしていきたいっていうか、していきますよ。でもそれをするには多少変わっていく部分も必要不可欠なのかなって。ノリ重視で、キラキラしてるといって、ミラーボールの似合う、そういう金曜日で(笑)。